十七日　夕刊

磐城毎日新聞

□本紙一ヶ月　金六十錢
□郵稅　金十五錢
□一部賣　金三錢
□廣告料一行　金六十錢
□雜報欄　金九十錢
□場所指定一行金一圓增
□電話（平）七、八六番
□振替口座東京一〇八・五六五
福島縣平市田町十六番地
發行所　磐城毎日新聞社
發行編輯兼印刷人　森合英

政治が一つの原理を必要とする如く文學を原理に迄引き戻して新らしく文學の傳統を導いて行く事が必要である（尾崎士郎）

閼伽井風

時局認識と教育者

高木稻水

十五日づけの東日の家庭欄で情報局の時局懇談會に就いての所感として黑田米代氏の話を載せてゐる、その中に『女學生程度の若い婦人の間に時局認識について遺憾の點があるといふことは大いに考へねばならぬ重大問題で……同時にまた先生方の教養即ち時局に對する確固たる認識を持たせなければならないと思ひます。』云々と述べてゐられる事に私も考へさせられた事がある。

ドイツなどでは戰時中にも拘はらず非常に第二國民の養成といふことに關心を拂つて松岡氏の歡迎堵列の場合でも兒童を一番前の方にならばせて『お前達は將來のために好く見ておけ』といふ態度を示してゐたさうであるが日本では兎角教育といふことを社會から遊離させようとする傾向がある。

だから先生といへばさぞかし世の中のことは何もごぞんじないだらうといふ風に考へるのが一般の常識である。何がさうさせたか？是は先生の罪といふよりも教育制度の罪で、先生は町なり村なりの事には絕對にかかはつていけない、外部とは一切交渉を持つなといふのが當局の先生拘束法であつた

それから是は教育者に限らず高等教育を受けたものにともすれば反時局的の言辭弄してどうだ俺は偉いだらうといふやうな態度をとりたがる人がある。總親和の意味からいつても教育者役人等は嚴に言動を愼み輕々しく國家の政策等を批判したりすべきではない。當局を絕對に信ずる態度を持してほしい。特に教員は相手が生徒兒童だけに影響する所が多大である。

文化の運命と使命

（三）

大宅壮一

又手紙と云ふものは人間の思つてゐる事を相手に傳へるのに一番便利で個人の考へを正確に細密に傳へるには良い方法です。これ迄は演劇が主として行はれてゐてそれを多勢の人がやるから自分の氣持を傳へるには大味で無理であつた。所が小說と云ふものは人間の考へを心の中をそのまゝ開いて見せる。又芝居は自分の方から出かけて大勢と一緒に見なければならぬが小說は自分の都合の良い時に食事中でも便所の中でも何回でも讀む事が出來て相手の心情を身近に感じるから近代の個人主義文化の傳達体として最も大きい役割を演じたのであつて、かう云ふわけで小說が發達し盛んになつたのです。

所が斯樣に產業革命が絕頂に達すると共に小說と云ふ形式も絕頂に達したのであつて、即ち小說と云ふものは十九世紀に最も發達したと思はれる。例へばロシヤのトルストイ、ドストイエフスキーとか英國のバーナードショウ、佛國のロマンローラン等と云ふ作家はすべて十九世紀に生れ十九世紀文化の基礎の上に榮えたのであつて二十世紀になつてからこう云ふ世界的の基礎の上に立つ偉い作家は恐らく現はれまいと思はれるのです。

ですからこれが小說と云ふ形式の運命ではないかと思はれる。つまりどこ迄も一人の人間が書く云ふ點に意義があるのですから、偉大な個人が現はれぬ限り或ひは個人主義的に偉い個人が生れぬ限りは意味が無かつた。トルストイ等は民族や國家等と對立する位の個人的な偉さであつて、何物にも因はれず人類を批判したり國家を批判したりしました、所が二十世紀以後にはそう云ふ個人は生れない それは個人主義文化が行詰つてゐるからです尤も今日でも多くの小說が生れてゐるけれども量と質とが異つてゐるのです、勿論小說が世に出る迄には印刷とか出版とか色々の手を經なければならないがその中味はどんな紙でもどんな体裁でも違はないのであつて、殆ど影響がありません。

こう云ふ點から考へると現代に於ては文學がどう云ふ方向へ向かねばならぬかと云ふ點で悩んでゐるが、小說と云ふ物が時代のスキツチを切り變へるには困難な形式であつて、如何に民衆に訴へるには難しいと云ふ事が判ると思ひます。

大体私共の育つて來た教育が個人主義的な文化や教育でありますが、今私共のしてゐる映畫等と云ふものも軍部で盛んに利用して居つて殆ど兵器と同じ様に大事な物でありますこの點私達の様な個人主義的の教育を受けて來た者も參加出來る點で大變有難い事だと思ふのです。

冬日抄

（二）

木下雁次

一月廿日　晴

風邪は相變らず好くならぬ。無理を押して登校、辛うじて授業をすます。一年の國文法は說明に聲が出ないので閉口した。急いで歸宅して臥床。どうもひどく咽喉をやられてゐる、教師が咽喉を悪くしたのでは商賣にならぬ。おまけに今度は腸もいけないらしく、下痢がして粘液がでる、しかし氣分は昨日よりも好い、無理がたたつてゐるのだ、

北海道の洋一郎から來信。室蘭の日鐵に入つて七十圓の收入で弟妹の世話をやつてゐるといふ。

床の中で洋一郎の母のことを考へた。彼の母は自分の姉だ、六歳の春始めて湯本の町を見たのはこの姉に連れられてであつた、不運にもやくざな夫を持つて郷里で生活できなくなつて北海道に渡つたのは今から二十年も前の話だ。北海道に行つてからもさんぐ\に苦勞を重ねて三年前とうとう死んでしまつた。八年前修學旅行に行つた時三川の驛の附近の百姓家に姉を訪ねたことがあつた。非常に喜んでいろ〱御馳走をしてくれた。自分を驛まで送つてくれた。その會見記を當時在世中だつた老父母に通知したら父母がひどく喜んでくれたことも思ひ出の一つだ。白毛の多い髮、生活に疲れた姿……不幸な姉だつた。かくして洋一郎は敢然として生活戰線に立ち上つた、いつも考へられる事は所謂學校教育に對する疑問だ高等教育を受けても立派な人間はある。それは受けなくても立派な人間だつたのである。學校教育を受けてゐない者は理窟は知らぬ、理窟はいはぬ。しかし好く實行する、態度が眞劍だ。現代の教育にはどこかに救ふ事の出來ぬ大きな缺陷がある自分は眼をつむつて過去十有八年の教壇生活を回顧して見た。

第一回詠草

（四、十七、川前行）

大野村女子青年學校生徒

歩みきてつかれはてたる乙女吾ふと忘れてはつゝじとりけり　佐藤千づ子

ぺんたうを手にして並木下をゆく春風ほゝにあたりては去る　久野ナミ

谷一つ向のつゝじを見上げつゝ疲れやすめる吾ら友垣　木田ミツ子

谷深く水清ければ自ら心も共に清らになりし　久野光子

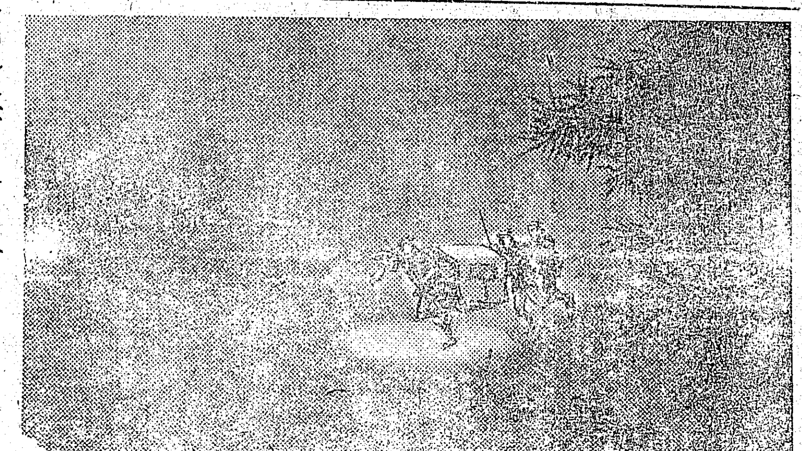
さら〱と流れる水のうつくしさ岩のつゝじも色はえにけり　西山智子

異說赤穗浪士

（198）

桃川若燕

（畫）城木喬



寺阪の報告

寺阪を待たせて、戸田の局は大奥へ參ると瑤泉院樣は一旦治つたお癪氣が又起つたと見え、お傍の女中共が御介抱申上げてゐるに戸田の局は暫しためらつたが事が事故それへ進み『御台樣に申し上げます。只今御錠口番が申し參りました。寺阪吉右衛門なる者仇討の委細注進に參りましたとの事、如何取計らひまして宜しう御座いませうか……』『戸田の言葉に瑤泉院は苦しみの中にもハッとしたが『戸田何んと云はれる昨夜仇討致したとはよも僞りではあるまいの『却々持ちまして僞りを申しは仕りません。吉右衛門と申す者、お目通りが願ひたいと申します』

『身分輕き者と云へ、忠義の志は重いもの早速これへ……』戸田の局は大いに喜んで、再び御錠口へとつて返し、吉右衛門を連れてお庭先へ來る、寺阪吉右衛門は血まみれになつた儘雪の中に兩手をつき控へる。戸田の局は『これに控へましたが寺阪吉右衛門にございます』『オ、吉右衛門とやら頭を上げい。して仇討は首尾よく成就致したか『仇討の同志の內に見十內や弟幸右衛門も加はつてゐたか、萬一怪我でも致しはせぬか』『コレ〱戸田如何したのぢや、自らが尋ねる前に話の腰を折るとは云ふは……』『恐れ入りましてございます』『コレ吉右衛門、早くその仇討の次第を聞かせてくりやれ』『ハッ直々のお言葉下し置かれまして身に餘る嬉しさ、さて大石樣の仰せには昨日當お屋敷へ罷り出でましたは內々にて手配りを申し上げる所存にございましたが、大勢の女中のお傍にある中にてお尋ねに相成りました故、直ぐ樣それとはお答へ申上げられずと申してお人拂ひを願ふも異なもの、若し敵方の間者にてもあらば忽ち露見これ迄の辛苦も水の泡と相成ると存じまして態と心にもなき御無禮を申し上げたる次第、御台樣の御立腹の段は重々お詫び申上げよとの事にございます……』『女の淺墓から場所柄も辨へず、內藏之助に對して大事の事を尋ねしは、自分の誤り、却て內藏之助の心を痛めさせたは、自分より詫びを致しますぞ』

「ハッ、そのお言葉は恐れ入り奉ります。さて一味の人々昨日夕景より兩國矢の倉なる堀部安兵衛方を始め二ヶ所に集まり、時刻を待ち子の半刻に及んで吉良の邸に罷り越し、表門より內藏之助樣大將として二十三人を引連れお乘込みになる、又裏門よりは御子息主稅樣が大將としてこれに二十余人が從ひ後見には吉田忠左衛門、小野寺十內殿が付添ひ同勢二手に分れて討入りましたが、吉良方にも鳥居、小林、和久、清水など二十余名の附人があり、何れも用意の槍薙刀打ち振り〱馳せ向ひます。それがため可成り手間取りましたが、我々黨中四十余人いつかな怯まず乘込み〱玄關、次の間、大廣間、上野介殿お居間を始め茶席次の間、庭內と嚴しく吟味致したが何れへ逃げしか見當りませず……』『して吉良は其儘逃げ失せたか』『然し天の許さぬところと相見え思ひも掛けぬ雜藏に潜み居りますを尋ね出し、一番槍は間十次郎殿襟髮取つて引き出したは武林唯七殿、廣間へ吉良殿をお連れ申し御城代より段々とお尋ね致しましたなれど、初めは言葉を左右にして大友近江守とのみ仰せられましたが、終には隱し通す事が出來ず、內藏之助殿が主君お肉通しの御短刀にて吉良少將の首を搔き切り死体は大石殿を始めとして我々共も一太刀宛恨みを報いましてございます……

度量衡
モノサシ・升・秤
計量器
体温器・寒暖計
ハカリの取締並に修繕致します
吸入用酸素純度99％
關內藥局
平四丁目　電話四〇番

防空暗幕
天幕・シート
防水マント
カーテン・敷物、防水加工
販賣　製作
●設計と施工●
敷島屋商店
平市六丁目六
電呼四八三番

純毛類の
純ドライクリーニングは誰が何んと言つても絕對
他店の追隨を許さぬ
ペンデン純ドライクリーニング機械と優秀なる蒸氣仕上機械使用
白榮舍ランドリー
（クリーニング用の高級原料は豊富に準備してあります）
他店でお氣に召さぬ時は是非一度御試し下さい
正直な仕事と優秀なる技術をお望みの方は
設備を誇る平市田町の
白榮舍ランドリー
平市地區洗染同業組合員

大小の御宴會にホール
御家族の御同伴に御座敷
いつも材料を吟味して居ります
平市四丁目
マルトモ食堂
（電話一二三番）

工員募集
一、求人者
福島縣石城郡小名濱町
日本水素工業株式會社小名濱工場
二、應募資格及人員
年令十五才以上の男子　一〇〇名
右優遇採用す
三、寄宿舍其ノ他福利施設完備
四、申込方法　履歷書一通提出ノコト
五、申込場所
平市田町
平國民職業指導所

附屬產院　新設（姙產婦入院隨意）
產科
婦人科
木村病院
平市新川町　電一六四

產科、婦人科
根本醫院
平市南町　電話三四番

軍服と國民服
御注文並に既製品
高島屋の洋服
平市二丁目通　電話三六八番

和洋銅鐵、金物問屋
釜屋商店
電九・九九

迷ふな流言漏らすな機密
防諜週間　自五月十二日　至五月十八日
只今マルトモと當店に參考寫眞陳列
大黑屋の初夏の御案內
晴雨傘と婦人ブラース
子供帽子と中折とヤング帽
ネクタイとワイシヤツ
只今お買德品陳列
平市　大黑屋

すべての織物が强くなる
三五セン　五〇
强化・防水を兼ねた織物糊
オリモト
スフ人絹綿絹　糊と强化防水劑を兼ねた國策品
御推奬　東京聯合婦人會　日本女子大學　大日本青少年女子部
あなたの手で國策協力
家庭の物資は國家の資源です
餘裕ある方でも今は身廻りの衣類を永持ちさせ物資愛護の實を擧げる時です。
オリモトで加工するとスフが純綿同樣强くなり、純綿、絹、人絹は一層强く防水となります。オリモトは强化防水糊料と織維を美しく强くする樹脂劑附を化合したもので……使用法は在來の糊付同樣湯に溶かし品物を浸して乾す丈で濟みます。
張物は一反三錢・Yシャツは一枚一錢、靴下、足袋は一足六厘で4倍以上永持ちします。
特約店
市內販賣店
平マーケット
銀座町　大黑屋
三丁目　太丸屋
電話二三番

賣買.交換
カメラ
現像燒付引伸
專門の店
御不用カメラは東京相場よりお高く頂戴致します
平市中央通り
茂木カメラ店

おちの良い
マルミ粉末石鹸
發賣元　平市材木町二　マルミ化學工業所

おでん
ヤキトリ
田町末廣トナリ
一柳

第二次桑園凍害で 春繭減收 八千五百貫

山間部落は未曾有の慘害

相次ぐ霜害で石城地方の桑園は尠なからぬ打撃を受け山間部地方は全滅に瀕したもの續出し春繭の掃立期に當つて慘澹たる狀況を呈してゐるが、平蠶業取締所の調査に依る第二次凍害（十四、五兩日）に依ると桑葉皆無作地百六十八町歩、七割以上五十一町七反歩、この被害戸數は七百八十七戸の多數に上り、春蠶の收繭豫想數量は八千五百貫の減收となり四月二十七日の第一次霜害に依る七千四百貫の減收を合すると石城地方の春繭は一萬六千貫の減收を招き、養蠶家にとつては十數年來の痛手となつた、第二次凍害狀況は次の如し

	收獲皆無（町）	七割以上（町）	其他（町）	豫定收繭（貫）	減收量（貫）	被害戸數
川部			五、二	二、六三七	一三七	一七
田人	四、五	五、七	一三、五	三、九九〇	一、〇〇五	一三〇
三阪	七九、〇	一五、〇		二、八〇〇	二、五二〇	一四五
澤渡	二九、〇	一一、〇		一、五六〇	一、一〇〇	九一
永戸	三四、〇	二〇、〇		一、八二〇	一、〇〇〇	八八
川前	二二、九			二、二四〇	二、二四〇	二六六
上小川			一五、五	一、〇七〇	五〇〇	五〇
合計	一六八、四	五一、七	三四、二	一六、一一七	八、五〇二	七八七

軍艦『多摩』歡迎

廿日夜軍樂演奏會開く

軍艦『多摩』は十九日小名濱へ入港、艦上簡閲點呼を執行する事になつたが小名濱町では全町國旗を揭揚し煙火を打擧げ十九日入港當夜は准士官以上を新米に招待し歡迎の意を表し、軍艦へは清酒一荷を贈り微意を表する事になつたが、入港中軍艦の行事は二十日午後七時より第一校に於て軍樂演奏會並に海軍普及の爲めの映畫會を開催する筈である

尙ほ二十日二十一日は正午より五時迄一般見學者の爲めに軍艦の觀覽を許し鄉軍分會ではハシケの用意をして大衆の便宜を計る事になつた

本社慰問班へ 匿名で十圓

奇特な『金みよし』女將

十六日午後二時頃本社を訪ね『これをどうぞ』と封筒を差出し名も宣げずに立去つた女性があつた、開封して見ると『御社の白衣勇士慰問に感激させられました、ほんの少しですが慰問費のはしにお加へ下さいませ』と書添へ金十圓同封されてあつた、奥床しい匿名の女性に本社も感激させられ、八方調査の結果、仲田町七二旗亭『金みよし女將』會川きみ子さんと判明した、電話をかけてお禮を申上げると謙遜して語る

ほんの心ばかりだつたものですから、名前など出されると却つて恥かしいと思ひまして匿名でお届けしたのでした、却つてお騷がせして申譯御座いません、白衣の勇士に捧げる心を買つて下さい

前線慰問通信

★☆★☆★☆【2】☆★☆★☆★

想出の砲台遠く眺め 感慨無量で上陸

上海から（下）

縣議 木村守江氏

想起せば丁度この邊であつたらうか。昭和十二年〇月〇日事變に參加の爲め兩角部隊の兵を積んだ御用船が舳艫相含んで上海近くに來たる頃敵の空襲に見舞はれ生れて初めての戰場氣分を起したのはなど次から次ゝ聯想し甲板に出て想出深い支那の地を眺め盡した、勿論事變當初は甲板に出る事は絕對に許されなかつたので何處が何やら一寸もわからないが今日眺むる揚子江沿岸の風光は何處に戰爭があるのかと思はるゝ位に靜かである。のんびりしてゐる、船は黄浦江に入り吳淞が手に取るやうに見える、こゝが想出の吳淞の砲臺があつて、我が上陸部隊を困却さしたのかとは思はれない位に復興してゐる、九虹碼頭に近づく、こゝが俺達の上陸した所かと思つて穴のあく程見守つたが當時殆んど破壞された倉庫も新裝された上に增築されて軍用艦らしい大きな艦船が碇泊してゐた、只飯田部隊長の惡戰苦鬪身を以て此地を奪取した地として盛田棧橋と大きな看板が揭げてあることゝその後方に幾多の敵の屍体がころがつてゐた葦叢が今尙ほ青々として殘つてゐる丈である。然しこれ丈でも當時を追憶するに充分で感慨無量筆舌に絕するものがあつた

船が上海の波止場に着いたのは丁度午後四時四十分であつた、こゝには興亞院に勤めてゐる元本縣廳員眞田重喜、阿部源松兩君と四倉出身の鈴木忠太郎君が待つてゐてくれた、上海の宿は相馬中村町出身の今野太郎氏の經營する日の丸館と定めておいたので主人は二人の番頭を引つれて來てゐてくれた、丁度船中宮城縣演藝慰問團（古川町藝者五名、女子青年團長、男子青年團長、在鄉軍人分會長）と一緒だつたので新聞社の記念撮影を終り興亞院に直行する、

こゝには嘗て福島縣廳に敏腕を振つて將來を囑望されてゐた石城郡鹿島村出身の新妻一郎氏が事務官として新東亞建設の實際に活躍してゐる、先づ新妻氏に敬意を表し馴れぬ旅路に對する數々の注意を拜聽し特別の御厚意によりて午後六時過ぎであつたが持參せし爲替を現金替へしてもらひ明四日南京行を決定してこゝを辭す、實は今日（三日）は遲いことであり明日（四日）は日曜である爲に爲替を受取る迄に五日迄待たねばならぬので困つたものだと諦めてゐたのが新妻一郎氏の爲めに兩替が出來て南京出發を早急に出來たことに對して深く感謝の意を表しておく。

此處から興亞院の自動車にて吳淞路の磐城セメント出張所に敬意を表し歸途上海四川路に虹口醫院を開業する二本松町出身の今泉三郎先生を訪ね氣になる顏の腫物を診察してもらふ、こゝにゐる看護婦も女中も皆福島縣人との事とて私の立寄りたるを非常に喜こばれ種々の故鄉の話に時を過す。

今晩の宿である日の丸館に歸れば揚子江のパイロットと稱せられてゐる海軍中佐福島縣人會長菊地豊吉氏既に來り吾等を待つ、縣の近況や大原八郎先生よりの言傳をなす、その中に磐城セメント上海出張所長丹野慇七氏並に社の田口眞六氏が態々來訪されて種々世話をしてくれる、感謝の至りである

午後十一時半頃床につき上海の一夜を明かし、午前六時起床七時上海驛に向ふ。

隣組が醵金

湖洲さんを激勵

平市田町三田小路隣組では組內から本社の白衣勇士慰問班中島湖洲さんを出してゐるのに知らん振りでは申譯ない、と組員が醵金し金二圓也班長箕輪さんが本社を訪問寄託された

釜屋さん

一ダース寄贈

平市五丁目釜屋諸橋元三郎氏息女綾子さんから本社の慰問班へ『必勝ゲーム』一ダース分十圓寄附があつた

杵ずし 店員さん

慰問費三圓寄託 銀座通りの杵ずし高橋武さん方でも、店員さん達が一圓宛出合つて『白衣の勇士慰問費へ』と今十七日本社へ三圓寄託された

三業組合 十圓寄託

慰問計畫に共鳴 平市南町の料理店平三業保健組合でも本社の計畫に共鳴し組合長田崎信德さんは今十七日午後一時頃本社を訪問『白衣勇士慰問の玩具費へ――』と金十圓寄託された

防空協會

四倉管內寄附者 大日本防空協會福島縣支部事業資金に寄附した左の諸氏は何れも特別會員となつた△一千圓、大久村脇口豊三郎、△二百圓四倉町鈴木唯治△百圓、四倉町萬年瓦工業株式會社△百圓、四倉町大須賀丑藏、同額賀毅

献金

川部村農赤津太久さんは十六日平署を通じ金十圓を陸軍恤兵部へ献金した

◇

赤井村第一國民學校矢野モトちやん外二名は小遣錢を貯めた金一圓五十七錢を十六日平署を通じ陸軍恤兵部へ献金

北洋の寶庫拓く 獨行船母港出帆

ベニ鮭追つて敢鬪・八月歸港

北海の寶庫を開拓、ベニ鮭を追つてオホーツク海の怒濤と敢鬪するカムチヤツカ行き獨行船の〃海の戰士〃は今十七日一齊に母港を出港した、本郡からの出漁船は江名港より三十三隻、四ツ倉港より三隻で何れも二十五、六トンの底曳船である

先づ獨行船は一旦函館港に入港、重油、食糧品の積込みを了し津輕海峽を橫斷日本海に出て更に北上間宮海峽を通過、樺太を迂廻し流氷の危險を冒しオホーツク海を東にぬけカムチヤツカ半島の西側で操業を開始するもので同漁場へは約三ケ月間各契約會社の母船を中心に輸出向け鮭罐詰の原料獲得に〃水產福島〃の名譽をかけてはたらくもので八月下旬には筋子、鹽鮭を土產に懷しの母港へ引上げる

り各區へそれ〲推薦

死亡率に驚き 乳幼兒保護

「興亞の寶」母性へ示唆

子供肥つて國肥ると云はれる程子供は〃興亞の寶〃だが最近の出生率に併行して乳兒の死亡率も增加の傾向にあるので市衛生課でもこの對策として母性補導員を增員することゝな方を依賴してあるが同衛生課の統計によると十五年度中の乳兒死亡は男兒二百四十八名、女兒二百三十一名、計四百七十九名の死亡を見てゐる

更にこれを月別に見ると生後二ケ月が二十五名（男十六、女九）で最も死亡率の多いのは生後七ケ月で七十五人（男三十五、女四十）これに續いて五ケ月の五十八名（男三十、女二十八）九ケ月の四十八名（男二十二、女二十六）一方死亡率の尠ないのには前記の生後二ケ月と一ケ年の三十人（男十六女十四）がある

猫鳴山登山

降雨の豫報で中止

平山岳會の猫鳴山登山は明十九日午前五時五十分平驛發列車で出發する豫定であつたが、明日の天氣豫報は南西の風から北西にかはり曇小雨模樣とあり山中で雨に見舞はれる模樣のため中止することに決定、次回は追つて發表することになつた

氣象智識普及

廿二日代表者招集

小名濱測候所では氣象に對する智識普及の爲め本町利用者を來る廿二日午前十時測候所に參集を求め氣象學の普及に關し打合會を催す事になつた當日參加する人々は松本龜次郎、小野晋平、野崎貞行、比佐正種、小名濱礦油立花勇、水野政次郎、三代龜太郎の諸氏である

頰刺製造

機構統制か

小名濱信用組合では某所よりの注文で頰刺鰮集荷中であつたが機構の不備から約半數の一万箱五十車を發送したのみで未納品は今秋迄延期する事になつたがこの需要を充たすには漁船並に製造工場を特定し統制ある方法を講ずる必要に迫られ、今秋よりは秩序ある機構を設け需給の圓滑を圖る事に計畫中である

八十億突破を記念

貯蓄奬勵懇談會開く

全國の郵便貯金は現在高八十億圓を突破する好成績を示し、貯蓄報告運動は順調に進行してゐるので、これが達成を記念し

平市長 靑沼鋒太郎

平局長 川村浩

市內各無集配局長が共同主催で二十二日午後一時から公會堂日本間に『貯蓄奬勵懇談會』を開催することに決定した

當日の招待者は團体預金の代表者、市內の貯蓄功勞者、全盡力する等百二十余名で仙台遞信局貯金課から志田係員が臨席し、座談的に貯蓄奬勵について意見を交換する

湯本町葬

けふ國民學校で

湯本町では十七日午後一時から同町國民學校講堂に太田渡伍長の町葬を執行した

大金の落主

篠原さんと判明

既報草野村國民學校附近で拾得した三百六十圓入の財布は平市田町篠原松太郎氏の落したものと判明し四倉署から同人へ返された

お化粧 鋪裝道路

本町通りも美化

本町通りのお化粧―平土本監督所では平市紺屋町から五丁目までの本町通り鋪裝道路が余りに凹凸が激しくなつたので四、五日前から同所の道路工夫を動員修理してゐるがこゝ二三日中にはすつかりお化裝成つて〃石城の平〃の面目を一新する豫定にある

南方漁場 鰹漁未し

本縣船房州待機

今日迄の處待望の鰹漁は思はしからず既に漁期を過ぎた鹿兒島の漁況は平年の三分ノ二の漁獲しかなかつたに鑑み、北上漁場も樂觀を許さぬ狀況で目下は紀州沖合が漁場となつて居り第二東日本丸、浦安丸も鰹を追つて沖合にあるが快報達せず、爲めにその他の本縣鰹漁船は目下餌の仕入に房州小港に待機中で、油の關係上輕々しく出動せず何れも快飛報を待望してゐると、本縣水試渡邊場長は語つてゐた

防空壕 作りませう

防空壕を造りませう―平市役所では今度大日本防空協會編纂の『防空壕構築指導要領』を市內各區內會並に市立學校へ一册宛を配る

市ではこの指導書により家屋外空地に構築する應急的待避施設たる防空壕を皆んなで造りませうと呼び掛けるわけ

四區教員會

石城第四區教員會では今十七日午後一時より草野校に研究發表會を開き終つて欠員中の會長並に副會長を選擧した

古峯神社 參拜團体

十九日平驛發

火伏の神樣として當地方にも信者の多い栃木縣『古峯神社』參拜團体は十九、廿兩日に亘つて施行するが

會費十六圓五十錢、第一日目は鬼怒川溫泉一泊、第二日目は日光東照宮參拜して解散する、參加希望者は三田小路一の井方事務所へ申込まれたいと

火事騷ぎに 夜警開始

榮町內會の活動

去る十二日小名濱町鰮加工場火災の晩、大して時刻もちがはずに古港藤社重吉氏所有造船工場にも放火らしきボヤがあり逸早く發見して消留め大事に至らなかつたが、これが爲め榮町內會では協議の結果午後十時より午前三時迄の間夜警を初める事になり十四日晚より實施、各隣組より一名宛四名と組長一人宛每晚交代に出動この物騷に警察陣も極度に緊張してゐる

平市慶弔錄

【婚姻】平市正月町一番地一色博（二七）さんと芳賀郡須藤村五味淵茂（二四）さん

【出生】平市禰宜町三十四番地北村俊雄長女絹子さん

【出生】△平市字月見町二十三番地樫村龜義長男義雄さん△平市字久保町二十三番地三浦守二女久美子さん

【死亡】平市南町十二番地酒井ミツ穴さん

◎◎◎◎◎◎◎◎ 白衣勇士慰問班寄附 ◎◎◎◎◎◎◎◎

△金十圓、金みよし會川きみさん△金二圓、三田小路隣組△金三圓、杵ずし店員一同、金拾圓、慰問玩具費へ平三業保健組合 合計金九十二圓

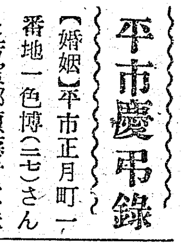
天氣豫報

今晩 南の風やや强く雨が曇が出ます

明日 南の風より北西に變り曇り小雨後晴れ

（十六日）

滿潮 前八、三五 後三、一三 干潮 前三、一〇 後三、三〇



日曜 丙寅 友引 收 星宿

舊四月廿三日

新五月十八日

▲一白 奮鬪するも不運には打勝ち難し守靜が肝要

▲二黑 平坦の地を往くが如くなるも急げば蹉跌あり

▲三碧 利慾を離れて人の爲に盡せば後に利福あり

▲四綠 氣力は有れど力鈍くして思ひ通りにならず

▲五黃 萬事不穩の形勢を含むが故立志見合すが吉

▲六白 自信に燃えて大に成す所あり熱心努力に吉

▲七赤 心湧き立ち氣も躍り大功を收むべき幸運日

▲八白 寶の山に入り乍ら路に迷ふが如し辛抱肝要

▲九紫 自力を以て開拓容易なる日耐忍を旨とせよ

會員に告ぐ

拜啓 薰風快適之候愈御淸榮ノ段奉賀候

陳者來る五月二十日午後三時より母校講堂に於て本會定時總會開催可致候間御出席被下度此段謹告仕候

昭和十六年五月十七日

平商業學校 商友會長 室橋 光

商友會員各位

（追而總會終了後恒例の懇親會谷口樓に於て開催可致候間御含み被下度候）

母ミツ儀狹心症にて十五日午後五時死去仕り候間生前の御厚誼を謝し此段謹告仕り候

追て告別式は十九日午後二時佛式に依り自宅に於て執行仕り候

時局柄生造花供物等は乍勝手固く辭退申上候

昭和十六年五月十六日

平市南町

喪主 酒井 保

親戚總代 猪狩仁三

急施 水道架設

小名濱町特典受付開始！

家庭の皆樣 水道水を使ひませう

現在小名濱町には戸數參千八拾五戸ありますが今迄に申込みに成つた家庭は約五十八％に當る千八百戸（うち工事完了千七百十戸）でつまり殘りの千二百八十五戸が未だ未布設のわけで御座います。御承知の通り水道は衛生の點からも、火防の上からも極めて大切で若し玆に新しい設備たる水道水を使用せずして傳染病に侵され多端な町費の負擔に加重を來たす樣な事がありましては甚だ遺憾な事と存じます

特典期間

五月十五日より

來月十四日まで

今申込れる方のお德は？

1 道路部分（水道鐵管の埋設される處）は町費負擔

2 宅地內の給水管六米は町費負擔

3 水道使用料は使ひ初めた月一ケ月は無料

4 設計手數料は無料

申込み手續きは簡單！

【期間後は一切町費補助はありません】

先づ所定の給水工事請求書に記入捺印して水道部（電話244番）又は組長さんへ願出れば良いのです

詳しくは水道部に御問合せ下さい

【町の事業は我等の事業】

小名濱町水道部 電話二四四番

御挨拶

謹啓時下初夏之候各位愈御淸穆の段奉賀候陳者不肖等從來各個人營業中は格別の御愛顧を賜り奉深謝候

偖時局下に於ける斯業界の新体制確立の要請に即應し省縣令に依る計画出荷の實施に備へ低物價政策に協力配給の圓滑適正を期する爲從來の移出業者及び地方卸業連携統合して移出共販の整備に萬全を期し多年經驗ある人的總和に依り今般 有限會社 小名濱鮮魚介移出共販所 を組織し、個人營業權の一切を當會社に於て繼承一元的に取扱を致す事こ相成候間今後共一層の御援助こ御引立を賜度奉懇願候追而從來の各店に對する御註文は今後於當會社一切御取扱可申候間御諒承被下度候 敬具

尙各商店より一々御挨拶申上可き筈の處乍略儀連名を以て御挨拶旁々貴意を得度如斯に御座候

昭和十六年五月

福島縣石城郡小名濱町字榮町五番地

有限會社 小名濱鮮魚介移出共販所

電話（小名濱局）三番

代表取締役 小野豐次

常務取締役 馬上庄一

〃 馬上喜次

〃 運賀熊次郎

取締役 立花新次郎

〃 櫻井吉五郎

〃 運賀金次郎

監査役 鈴木七郎